

研究

Research

多田ゼミ

社会政策科学科
多田和美 教授

社会との共存共栄を果たす国際経営のダイナミズムに、 学問として真正面から向き合う



皆さんは国際経営のメリットとして、どのようなことが思い浮かびますか？実は、国際経営特有のメリットと課題は表裏一体の関係にあります。国際経営では、国内とは異なる海外の各国・各地域の環境（文化、経済、政治など）への対応を余儀なくされるという課題（リスク）が常にともないます。

しかし、このリスクはビジネスチャンスに変えることも可能です。今日、経済成長が著しい国も多く、すでにビジネスチャンスは世界各国に広がっています。国際経営を行うことで、国内とは異なる経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報）を直接的に活用することも可能です。世界各国には、これまでとは異なる消費者や競合企業、取引企業といったビジネスパートナーが存在し、そうしたパートナーと対応することで、国内では得られない経験を積むこともできるでしょう。そこから、新しいアイデアやイノベーションが生まれるかもしれません。さらに、こうした海外の環境に対応することで得た恩恵は、その国のみならず、企業内全体でグローバルに活用することも可能です。それがまた、世界各国で新たなビジネスチャンスに繋がる・・・というグローバルな好循環も期待できます。さらに、企業のもつ社会的な影響力を考慮すると、このような各国の環境を生かす国際経営は国際社会の発展にもつながるし、「繋げるべき」でしょう。

このような国際経営のダイナミズムにすっかり魅了され、それを学問として科学的に探究したいと考えて今日に至っています。

ゼミでは、このリスクをチャンスに変え、さらには社会との共存共栄を果たすようなポジティブな国際経営のあり方を研究します。その際には、社会科学としてアカデミックな視点で研究することを重視しています。

まず、2年生のゼミではケース・スタディにチャレンジします。企業訪問などのフィールド調査も交えながら社会科学として正しい手順で事例分析を行います。そして、「その企業がなぜ成功したのか？」「なぜ失敗したのか？」などを科学的に分析します。この研究成果は、社会学部の主要なイベントの1つである学部研究発表会で発表します。

3年生のゼミでは、アンケート調査にもとづく定量研究にチャレンジします。仮説の構築、アンケート調査の設計、各種統計分析、分析結果の考察といった手順を経て定量研究を完遂します。そして、海外へのアンケート調査にもチャレンジします。ここでの研究成果は、「IBインカレ」という各大学の国際経営論のゼミが集う一大研究発表会で報告します。

4年生のゼミでは、たとえば国際マーケティング、グローバル・イノベーションなど、ゼミ生の関心に応じて国際経営の各論を研究テーマとして卒業論文を執筆します。ここでは、2年生と3年生で学んだ研究手法をいかし完成度の高い卒業論文を目指します。

いずれも学問としての国際経営論に真正面から向き合い、科学的に正しい手順で研究を行うことになります。それは地道な努力をともなう困難な取り組みですが、ゼミ生の皆さんが得られるものは大きいと考えています。知的好奇心の充足はもちろん、科学的に物事をとらえる力、論理的に物事を考えて自分の意見を表明する力、苦楽を共にしたゼミの仲間と築いた人間関係・・・これらは、皆さんの人生を豊かにする大きな力になってくれると信じています。

学生の声

日本という国が世界から信用してもらえる社会にしたい



社会政策科学科 2年 多田ゼミ
本山啓太郎 さん

2年次は基本的な教材の輪読から始まるので、国際経営論の知識がほとんどない私でも問題なくゼミ活動を行えました。また3年次では他大学も集まる研究発表会があるので、着実にステップアップできるのが多田ゼミの魅力です。私は、国内外問わず経済成長しているコンビニエンスストアを国際比較することで、成功の秘訣を他業種にも生かせる

のではないかと研究しています。国際経営をする上で、利益のみを追求し、現地の人とのコミュニケーションをおろそかにする企業が少なくありません。現地の人に寄り添い、信用を得ることが大切だと考えます。様々な国を各々の視点で考える国際経営論の考え方を活かして、色々な人の立場や意見に寄り添って考えられる人になりたいです。